

ジャンニーニ・ユネスコ教育担当事務局長補と 日本ユネスコ国内委員会教育小委員会委員との 意見交換会について（報告）



2019年9月4日（木）、文部科学省において、ジャンニーニ・ユネスコ教育担当事務局長補と日本ユネスコ国内委員会教育小委員会委員との意見交換会が開催された。

大山国際統括官の挨拶の後、ジャンニーニ・ユネスコ教育担当事務局長補より、2020年から始まるESD（Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育）の国際的な実施枠組み「ESD for 2030（持続可能な開発のための教育・SDGsの達成に向けて）」をテーマに、ESDの重要性、ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）における進捗状況、「ESD for 2030」のビジョンについて説明があった。また、ESD提唱国である日本によるESDへの貢献に対して謝辞が述べられた。

日本側からは、事務局より、日本のESDの取組が説明された。

その後、出席委員との意見交換では、最近における日本の教育改革の動向について触れつつ、ESDとSDGsとの関係性をどのように定義づけ、どのように両者を結びつけばよいかについて意見が出された。また、ターゲット4.7におけるESDとGCED（Global Citizenship Education、地球市民教育）の課題への言及や、ESDをどのように評価し学習成果に結びつけばよいかに係る課題が挙げられた。さらに、ODAでの教育事業やそこで培われた経験と国内施策との間をどのように結びつけばよいかとの意見、質の高い教育がESDに貢献するという意見、そして、教育における家庭の役割がどのようなものであるべきか等が話題に挙がった。ジャンニーニ事務局長補からは、行動の変容はESDの発展に重要であること、GAPにおいて2,600万人を越える学習者が関与したことから今後さらに状況は改善できること、そして、SDG-教育2030ステアリング・コミッティは今後SDG4達成に向けたレジリエンス向上のための活動を引き続き実施すること及び教育はSDGs達成の鍵であること等について言及された。